

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや、願いを久美、その人らしい暮らしが送れるよう個別支援目立に向けた援助を行なっている。職員は皆明るく元気で対応し家族との連携・信頼関係にも努めている。又、四季折々の外出行事の他に時々、ドライブに出かけ、施設前の公園にも日々出かけ気分転換ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の穏やかな自然体の人柄が事業所全体の雰囲気にも反映されており、職員も笑顔で、利用者へのサービスに努め、利用者の満足にも繋がっている。周囲の環境にも恵まれ、利用者の外出を積極的に支援し、利用者が落ち着いて、ゆったりとした気持ちで生活できるよう様々な工夫がされている。職員間の風通しも良く、常に利用者の立場に立った意見交換も十分に行われ、質の高いサービスが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域で暮らし続ける事の大切さを認識し、地域との関係を重視した理念を掘り下げ職員全体で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。	「やさしい笑顔」「明るい挨拶」「よりよい環境作り」の理念を、職員全員が共有し、全体会議などを通して、考え方の統一を図っている。小さな工夫を積み上げ、利用者のよりよい環境作りを目指して理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や保育園・地域の行事に積極的に参加している。散歩や買物などで挨拶をしたり近隣の人たちと触れ合う機会を設けている。	「明るい挨拶」という理念のもと、地域の人たちと気軽に挨拶し、行事や見学の呼びかけなども行っている。保育園のひな祭りや運動会に参加したり、小学校の生徒が訪れたりと交流は活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が積み上げてきた、認知症ケアの専門性を地域の方からの相談にも生かしている。人材育成への貢献として実習生の受入を積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で前回取り上げた検討項目等その経過を報告・話し合い、一つ一つ積み重ねてサービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議で災害対策などをテーマに取り上げ、事業所の見取り図や避難経路を地域に配布したり、協力体制を呼びかけたりしている。民生委員の協力、家族の参加も多く、運営やサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に折にふれ、事業所の実状を伝えたり電話で相談に乗っていただいたり、利用者の暮らしぶり等を知っていただくように関係づくりに取り組んでいる。	市とは入居相談や運営推進会議にも出席いただき、防災対策へのアドバイスを受けたり、介護関係の情報をいただいたりし、良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を事業所内で開き職員の共有意識を図っている。職員の見守りを徹底し、施錠をしないケアに取り組んでいるが、まだ不十分である。	人生の先輩として幼児言葉や命令口調を使わないなど、職員間でのケアのあり方の意思統一が図られている。利用者をよく観察し、身体拘束をしないで、利用者の安全を守る方法なども常に検討され、家族とも話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会ミーティング等を実施し関連法を理解し、虐待のないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き制度の理解を深めている。対応が必要と思われる利用者が現れた場合それらが活用できるよう支援に結び付けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取って丁寧に説明している。不安や疑問等に説明を行い納得を得た上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などで何でも気軽に言ってもらえる雰囲気作りに努めそれらの意見・要望をミーティングで話し合いサービスの向上に努めている。	家族会の開催時や面会の時に家族からの意見・要望は聴くようにしている。事業所のこと、サービスのことなど提案を受け、改善された事例もあり、運営にも活かされている。	家族会が開催されているので、今後は家族だけでの話し合いの機会を作り、その意見や要望を、更に、サービスの向上に活かしていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個別面談で意見を聞く他に日頃問いかけや聞く機会を持ち気づきやアイデアを運営に取り入れている。	毎月のユニット会議で日常気がついたことをテーマに話し合いを行っている。職員間のコミュニケーションも良好で、アイデアや改善案も発議され、日常のサービスの向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時折代表者は現場に来て職員の業務や悩みを把握。十分に話を聞き個々への対応とストレス解消で職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外での研修に参加できるように1人の研修が全職員で共有できるよう全体会議で発表・報告する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の機会は、なかなか出来ないが自社内にいくつものグループホームがあり年間計画を作って意見交換の場を持ち勉強会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い生活状態を把握し本人の思いに向き合い求めている事・不安に思う事を理解しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安をしっかりと聞き受け止めながら、どのような対応が出来るのか話し合いを持ち、関係性を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でサービスの現場に馴染み、安心・納得して利用できるよう、事前に見学を勧めている。受け入れが難しい場合などは必要に応じ他のサービス機関にも繋げていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持っている力を見極め職員が共有し得意分野で力を発揮する、そういう場面の工夫に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事や気付きの情報共有に努め、職員と家族が一体となり本人を支える協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線であるよう地域に暮らす知人と連絡を取り持ち、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	近くの馴染みの公園で、昔の付き合いのあった方と話をしたり、買い物に出かけたり、家族の協力で行きつけの美容室へ行ったりなど、馴染みの人や場所との関係が継続されるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず、気の合う仲間同士で楽しく過ごせる場面作り、関係が上手くいくよう職員が調整役を行い支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った後も利用者と一緒に会いに行っている。先方には本人の今までの支援状況を渡したり情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望・意向の把握に努め、本人要望に応えるようにしている(買い物等)。困難な場合は、言葉や表情より汲取り把握に努めている。	利用者との会話の何気ないひと言から、意向を推測したり、生活歴や趣味などを家族から聴くことで、利用者の希望、やりたいことを把握している。また、利用者同士の会話にも耳を傾け、サインを見逃さないようされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人独自の生活歴やライフスタイル・価値観等を把握。プライバシーに配慮しつつサービス利用に至った経過をケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを理解出来ない事より、できる事に注目し本人の全体像把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わり合いの中で本人や家族に要望を聞き、反映させるようにしている。本人がより良く暮らす為、職員全体で話し合いを持ち、意見を出し合って介護計画を作成している。	ユニット会議で利用者の様子を確認し合い、職員全員で介護計画を作成している。全員で話し合うことで、チームとしての力が高まり、利用者を支える力に活かされ、よりよい介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子や職員の気づき・状態変化等記載し、職員間で情報を共有している。個別記録を基に介護計画の見直し・評価に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院送迎等に必要な支援をする。柔軟な対応で、その時のニーズに対応出来る態勢がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや小学生との「交流・地域の祭りへの参加など、暮らしを楽しむ機会が出ている。推進会議に包括支援センターが参加。支援に対する情報の交換が出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行する。訪問診療を利用するケースもあり、複数の医療機関と関係を密に行っている。	協力医療機関の往診を基本に、利用者のかかりつけ医の受診希望については、家族で対応していただいている。複数の医療機関への受診が可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に努め、気づいた時は、デイの看護師に報告・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人の日頃の支援状況を医療機関に提供。面会にも時々訪れ本人を元気づける。又、家族・病院と情報交換しながら、早期に退院出来るよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階に事業所が何処まで支援出来るかを話し合い、本人・家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携を取り、安心して最期が迎えられるよう、随時、意思確認をしていく。	早い段階から利用者や家族と話し合いを持ち、次のステップへの準備提案なども行っている。利用者や家族の不安を取り除くことができるように、職員全員で研修や勉強会をおこない、支援が行えるよう検討されている。	事業所として対応可能なケアを職員全員で検討し、終末期を迎えるにあたり、医療的知識も含めた勉強会を開催し、利用者や家族の不安解消だけでなく、職員の負担軽減にもつなげることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当や、蘇生術(AED)研修を行い、職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防が立会い避難訓練を行っている。推進会議において自治会にも協力をお願いし、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議で事業所の見取り図や避難経路を説明し、緊急時の協力を呼びかけている。また緊急連絡網やマニュアルも整備され、夜間を想定した避難訓練も実施されている。	消防署の協力を得て、防災訓練時に近隣住民の方にも参加いただき、万一の場合の協力をお願いし、利用者の安全を守る取り組みをされることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアが必要な時も本人を傷つけないよう、さりげない言葉かけを行い、自己決定しやすいよう配慮している。	事業所独自の職員心得を常に意識し、利用者の人格を尊重した対応を心がけている。出来ることは継続してやっていただき、出来ないことにはさりげなく手伝えることで、その人らしい生き方ができるとの思いで支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で1人1人の力に合わせて複数の選択を提案し、利用者自身が決定出来る場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、それに合わせた対応をしている。その日の体調を見ながら本人希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人意向で着替えを行うが支援が必要な人には職員と一緒にいる。行事等には、お化粧やお洒落を楽しんでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューより好みの物を選んで頂く。職員は同じテーブルを囲んで食事を楽しみ、食後の片付けを利用者と一緒に行う。	昼食はセレクトメニューで、本人の好みの食事が選べるようになっている。後片付けや茶碗拭きなど、できる利用者にはやっていただき、食事中は音楽をかけるなど、楽しく食事ができる雰囲気が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好きな物・食べやすい物を出すようにしている。カロリー計算を行い、栄養バランスに配慮し摂取量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけ・見守りにて洗面所へ個別に行ける働きかけをしている。夜間の入れ歯の管理を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に毎日記録している。失敗しても本人が傷つかない言葉がけをし、手早く周囲に気づかれないよう配慮しながら対応している。	排泄の自立に向けて、職員がきめ細かく対応しており、紙パンツだった利用者が布下着が使用できるようになったケースもある。さりげない声掛け、周囲への気遣いなどにも配慮が徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し十分な水分と繊維質の多い食事の提供している。又、身体を動かすよう散歩等に積極的に誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい日・時間に合わせて入浴して頂いている。無理強いする事無く、その方の意志を第一にくつろいだ気分で入浴出来るよう支援していく。	利用者個々の希望に沿った対応がされ、入浴剤を使ったり、温度にも注意し、安心して入浴できる配慮がされている。入浴拒否の方には、無理強いせず、気分の良い時に誘うなど、利用者を尊重した対応がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムが整えるよう努めている。体調等に考慮しながら、ゆっくりした休息・睡眠が取れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を閉じ、職員が把握出来るようにしている。本人の状態変化が見られる時は協力医療機関に指示を仰ぎ、連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力が発揮できる事を見極め、合った役割を持って頂く。外出・ドライブ・散歩等に参加を促し気分転換がはかれる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望に添って外出や買い物同行などを行っている。自治会行事や近くの会館の催し物など出来るだけ参加できるよう支援している。	散歩や外食などは日常的に行われており、顔なじみの店の方の協力で、金銭の支払いも個々で行えるよう支援されている。また、近くの会館での踊りを見学したり、外出困難な方にはベランダや庭に出て外気浴をするなどの工夫もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設預かりとさせて頂くが小額を所持されている方もいる。外出時・買い物時はお金を手渡し、自分で払う事で満足していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや声かけをしている。年賀状や暑中見舞いで手紙のやり取りが出来る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア照明もソフトに押さえ共有空間が居心地の良い場所になるよう工夫している。フロアの飾り付けや家具の配置を利用者と一緒に考え、季節感や家庭的な雰囲気に配慮している。	季節に合った音楽を流したり、利用者の手作りの折り紙や花が飾られ、落ち着いて過ごせる空間となっている。また、利用者一人ひとりの部屋の入り口に、利用者の顔写真を貼り、自分の部屋がすぐわかるような配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置に配慮。1人で過ごしたり、仲の良い人同士でくつろげる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎを得られるよう使い慣れた物を持ち込み、その人らしい居室作りが出来るよう支援している。	家具やテレビなど特に制限を設けず、居室に持ち込んでいただき、出きるだけ自宅の部屋と同じ雰囲気を感じていただけるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた環境整備に努めている。新たな混乱が生じた時は職員で話し合い、本人の混乱が取り除ける自立支援に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 行田ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 平成 22年 7月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	10	家族会での発言も限られ本音が聞こえて来ない	家族の意見の反映 家族からの貴重な意見をすい上げ日々のケアに生かしていく	家族会開催時に職員の参加しない時間を設け 家族同志で話し合ってもらって頂く事でいつもは聞けない意見も聞く事が出来る 2ヶ月
2	33	高齢者を看取るため、まごつく事なく知っておきたいケアについて学ぶ	重度化、終末期に向けての医療的な面での知識を得る事で、あわてる事なく職員のストレス軽減にもつながる	終末期に向けての研修 看取り介護の研修 1ヶ月
3	35	災害対策	災害時、火災時に利用者の安全確認のため、職員の召集以前にご近所の方の応援が必要	消防署をまじえての防火訓練時に地元の方の参加を呼びかけていく 3ヶ月
4				ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。